

支援便り



平成30年4月発行
第1号
串木野養護学校
支援部

新しい年度がスタートし、園や学校では子供たちの元気な声、輝く笑顔があふれていることと思います。

串木野養護学校では、今年度も、地域におけるセンター的機能を果たすため、特別支援教育に関する相談や支援を行います。地域の先生方や保護者の皆様、関係機関の方々と連携しながら、特別な支援を必要としている幼児、児童生徒のために特別支援教育を推進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

串木野養護学校地域支援事業について

地域支援事業として、巡回相談、講師派遣、来校相談、電話相談などの形で、地域の先生方の御相談をお受けいたします。詳しくは、リーフレット「センター的機能の御案内」を御覧ください。



- ★ 相談は無料です。
- ★ 相談内容に関する秘密は厳守いたします。
- ★ 相談は本校への就学を勧めるものではありません。

平成30年度コーディネーター

～ 私たちが担当いたします。よろしくお願い申し上げます！ ～

鳥越 美保 亀田 純 伊瀬知和枝 岩岡 良治
岩元 彰宏 小野祐貴子 臼山 成人 加治木 守
鮫島 寿代 島田久美子 東 明美 堀 恵子



平成30年度の本校主催の研修会のお知らせ

今年も、特別支援教育に関する研修会を実施する予定です。
詳細につきましては、後日お知らせしますので、是非御来校ください。(ホームページにも掲載します。)



期 日	内 容	対象者
6月7日(木)	幼稚園・保育所特別支援教育研修会 * 午前は学校見学会を実施 * 特別支援学校における「入り口の教育」について、研修できる内容を計画しています。	幼稚園・保育所の先生方 または、幼児の支援に携わっている方
7月27日(金)	串養夏季セミナー * 各園・学校のコーディネーターや特別支援教育担当者を対象にした情報交換会を設定します。 * 特別支援教育に関する講話を予定しています。	幼稚園・保育所・小学校・ 中学校・高校の先生方及び 教育関係者 本校職員

巡回相談や教育相談、特別支援教育に関する窓口

下記のとおりですので、お気軽に御連絡ください。

※ 巡回相談の手続きや申請書に関しましては、各市教委にお問い合わせください。

鹿児島県立串木野養護学校
Tel(0996)32-4105
教頭(土井, 大山)

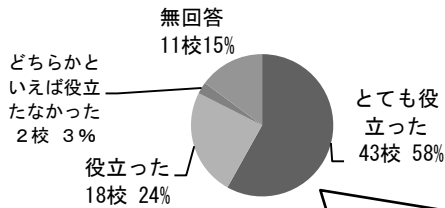
(月~金 9:00~16:45)
Fax(0996)32-4106
地域支援担当(鳥越)



平成 29 年度 巡回相談アンケートより

昨年度末に、本校の支援対象校・園（97箇所）に御協力いただき、平成29年度の巡回相談について、アンケートを実施しました。お忙しい中、御協力ありがとうございました。

巡回相談は役に立ちましたか？



毎年「巡回相談が役立っている。」という御意見をいただいておりますが、今年度は、「回数が少ないのが残念」「経過を見てほしい」という御意見も多くいただきました。

【今年度の取組について】

- 巡回相談の機会や時間が限られているので、その時間を有効に活用できるように、先生方と連絡を取り合いながら進めていきたいと考えています。巡回相談実施後の支援の経過や変容なども情報交換していきましょう。
- 電話相談、来校による相談もどんどんご活用ください。串木野養護学校支援部が、これまで以上に「気軽に相談いただける身近な存在」になることを目指していきたくて考えています。

おすすめの記事

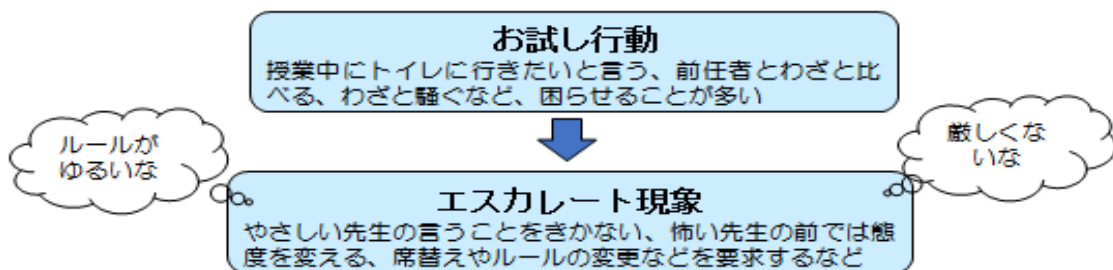
雑誌「月刊学校教育相談」の今年度の特集に、「担任の悩みにこたえる『教育相談だより』」（宮崎県公立中学校養護教諭 宮内英里子先生）のコーナーがあります。その第1回のテーマは「子どものお試し行動」。巡回相談の相談内容でもよく伺う興味深い内容です。第2回目以降も、発達の問題、愛着の問題、保護者の問題、不登校問題などが取り上げられる予定とのこと。きっと子供たちの支援に関わる先生方の役に立つと思います。

新年度あるある！ お試し行動

「新年度あるある」の1つに【子どものお試し行動】があります。新しい先生への期待や不安から、先生がどんな人かを試すために、わざと困らせることを言ったりしたりします。



お試し行動をする子どもの中には、昨年度と比べて先生がやさしいとか、ルールがゆるそうと思ったら、困らせる行動をエスカレートさせてくるタイプがいます。【エスカレート現象】です。特に同じクラスに同じタイプの子どもが複数いると、お互いに影響し合い、集団でさらにエスカレート現象を起こします。クラスに秩序がなくなる原因の1つになります。



お試し行動やエスカレート現象を起こす子どもは「愛着の問題」を抱えていることが多いです。人に対する基本的な信頼感や安心感が育っていないので、「適切なかわりが苦手」です。新しい先生に対してもお試しをして、まずその脅威度を知りたいと思うのです。



愛着の問題を抱える子どもは、叱れば反発、ほめれば調子に乗るなど、「叱る」「ほめる」が効果的ではないことがあります。お試し行動をする子どもに対しては、エスカレート現象を起こさせないように【1対1の対応】で【先手の指導】をすることが効果的です。

【1対1の対応】と【先手の指導】とは

本人と先生の「1対1」の場面をつくります。そして本人ができそうなことを「先に」指示します。それが実行できたら「助かりました。ありがとう」とほめます。愛着の問題がある子どもは1対1の場面になると素直に言うことを聞いたり、話ができることが多いので、問題を起こす前に先に声をかけておくことが効果的なのです。

〈参考文献〉米澤好史『「愛着の器」モデルに基づく愛着修復プログラム』